

新冠にまつわるお話しを集めた 新冠百話

第六十九話

「樺太での生活（語り）」（要約文）

私は高江で生まれました。若い頃、節婦で兄が漁師をしていたので手伝っていました。そして、二十歳から馬を持って出稼ぎに歩きました。浦河の向別の沢まで行って木材運搬をしていました。でも、浦河での出稼ぎではあまり稼ぎにならないので、兄に頼んで樺太へ行くことにしました。樺太へ行ったのは、大正十一年で二十四歳の頃です。まず新冠から、ずっと馬と一緒に小樽まで行きます。そこから樺太まで船で移動したのですが、海が時化て揺れるものだから、馬を囲んでいた枠が壊れて、大きな波が来ると転んだりしました。自分達も船に乗ったことはないから船酔いはするし、四日目によく樺太に着くことができました。

樺太では、馬を連れて奥地に入り、ソリに丸太を積んで引つ張らせるような仕事をしていました。でも、人も少ないし馬も少なかった。しかも雪が降ったら馬がぬかるので、荷物を積んでもあまり引つ張ることができない。ソリはひっくり返るし大変なものでした。最初は一年か二年ぐらいで帰る予定でしたが、仕事が進まなかったため、帰るに帰れなくなってしまうました。また、春はまだ雪が多いから、雪が解けるまで仕事がない。その

間は漁場に行つて、ニシン漁の漁師のような仕事もしていました。漁の仕事をしている間、馬は山の方に放しておいて、夏になったら馬を連れて仕事をしました。

樺太の冬は寒いのですが、夏は三十度ぐらいになる所もあって生活はしやすい場所でした。川は新冠川の倍もあり、沼のように深いのです。その川では引き網漁も大規模に行っていました。海ではアキアジなんかよく取れたね。タモ網を使つてすくいあげると、二尾も三尾も入る。それと大正四年くらいまでは、ニシンも大漁でした。また、樺太アイヌがいて西海岸の近くに集落を構えていました。

終戦後、ロシアの兵隊が樺太に入つてきました。妻と子供は、疎開せよとの命令がありましたので、先に新冠へ引き揚げました。すると樺太には男の人しかいなくなつてしまつた。やがて、私たちも出発する機会が巡つてきて、7人で樺太を後にしました。船に米や味噌などの食料を積んで北海道へ上陸しました。その後、苫小牧までバスや汽車で乗り継ぎ、新冠まで無事に帰つてくることができました。樺太を出発してから新冠に帰つてくるまで、結果的に十一日間くらいかかりました。



樺太での漁でも使つた「昔のタモ網」

夏の交通安全運動(7/13～7/22)が実施されます!

- 飲酒運転の根絶
- バイク・自動車などによる交通事故防止
- 長距離運転などによる居眠り運転事故防止
- 子どもと高齢者の交通事故防止

静内警察署

火災・救急出動状況 () かつこ内は前年同期			
区分	火災件数	救急件数	災害出動件数
6月	1件(0件)	20件(28件)	1件(3件)
6年1～6月	3件(3件)	131件(167件)	9件(12件)
交通事故発生状況 () かつこ内は前年同期			
区分	発生件数	死者	傷者
6月	0件(0件)	0人(0人)	0人(0人)
6年1～6月	1件(0件)	0人(0人)	4人(3人)

人のうごき

(令和6年6月末現在)

人口	5,083人	(前月比 - 11人)
男	2,548人	(前月比 - 5人)
女	2,535人	(前月比 - 6人)
世帯	2,832世帯	(前月比 - 2世帯)

戸籍の窓

5月21日～6月20日までの届出分(敬称略)

●おくやみ申し上げます

林	キミ子	88歳	北星町
小谷	堅一	86歳	北星町
八木	真樹	53歳	北星町
釜蓋	友子	68歳	東町

☆広報に掲載してほしくない方は届出のとき、町民生活課町民生活グループ住民係へお申し出ください。

●お問い合わせ先

町民生活課町民生活グループ住民係
☎ 0146・47・2112

町公式ホームページ



町公式フェイスブック

